

## 令和7年度第2回山縣市公共交通会議 議事録

日 時 令和8年1月30日（金）午前10時00分～

場 所 山縣市役所 3階 大会議室

### 事務局長挨拶

○宇留野会長：本日は次第にある4点の議題について皆様方にご審議いただくためにお集まりいただきました。忌憚のないご意見出していただき、積極的な議論をお願い申し上げます。

### 会長挨拶

○久保田会長：昨年は雪で美山地域では長い停電もありましたが、本年は今のところ雪を原因とした停電はありません。また、バスが運休となったのも正月と成人の日だけですが、バスの運行に気をつけなければならない時期に入っています。岐阜県ではLRT、岐阜市では自動運転バスのレベル4を目指す等、交通の在り方が話題になっています。本日は、忌憚のないご意見を出していただき、建設的な議論の場となるようご協力いただきたいと思います。

### 協議事項1 令和7年度地域公共交通確保維持改善事業 事業評価及び地域公共交通計画の評価について

○事務局：(資料1の説明)

○下平委員（岐阜運輸支局）：ハーバス伊自良・大桑線について、トータルの利用者数の目標は達成したものの、大桑地区の利用者数が減少しているということですが、何か理由がありますか。

○事務局：令和3年6月に当時の伊自良線と大桑線を統合しましたが、統合前の時点で既に大桑線の利用が低迷していました。推移を見ると、大きく下がっているということではありませんが、人口減少に応じて利用者数も減少していることが考えられます。また、年間利用者数を伊自良地区と大桑地区で比較すると、伊自良地区が約1万人に対して、大桑地区は約3,500人と地域によって差があり、この差が生じる理由について今後分析する予定です。

○倉内副会長：ハリヨ公園は乗り換え拠点との位置づけですが、バスの乗り継ぎ時間やバス停の待ち合い環境はどのようになっていますか。

実車走行距離について、岐北線の減便の関係で減少し目標を下回ったとのことですが、一方で乗降者数は増加しています。実車走行距離の目標値は下回ってい

るが乗降者数は好調である状況をどのように評価すべきか考える必要があります。実車走行距離の目標値を考え直すのか、それともこのまま継続するのか、どのように考えていますか。今後路線バスを新設することが現実的ではないとすると、サービスが足りないところの増便を検討するのかなど、今後の方向性をどのように考えていますか。

○事務局：ハリヨ公園の利用者数について、令和6年度は1,944人に対して令和7年度は1,877人と大きく低下しているわけではありません。バス停の待ち合い環境については、屋根付きの駐輪スペースがありますが、今後これを活用してベンチを設置したいと考えています。

実車走行距離が目標値に対して下回っている件について、今後路線を増やすことは難しいと考えています。今回の大きな減少は、岐北線の谷合岐北の廃止やダイヤの調整が要因となっており、この減少分を回復する方法としてハーバスやその他の自主運行バスで補うことは難しいと考えています。まずは45万kmという数値を維持したいと考えていますが、目標値を下方修正するかについては検討していきたいと考えています。

○倉内副会長：目標値はあくまで高いところに設定しておきたいが、減便せざるを得ない場合もあり、難しい問題だと思います。今後とも目標値の維持に向けて取り組んでいただければと思います。

○久保田会長：運転手の確保が困難ということで、市としても運転手確保に向けて協力しなければならないと思っておりますが、難しい問題だと感じています。

○久保田会長：この件について、ご賛同いただけますか。

○委員：(異議なし)

## 協議事項2 神崎山県BT線の変更について

○事務局：(資料2の説明)

○下平委員（岐阜運輸支局）：具体的にどのような経路で走るのか確認させてください。

○事務局：0便の発車時刻近くまでは北武芸公民館の駐車場で待機し、その後回送で出発し、図中の赤色点線の経路を通過して徳永公民館前（0便）へ向かいます。徳永公民館前（0便）で児童を乗車させた後、赤色実線の経路により、みやまジョイフル倶楽部前を通り谷合方向へ走行します。

○倉内副会長：0便は一般の方も乗車できるスクール便とのことですが、徳永公民館前という名称のバス停が2箇所あると利用者が混乱する可能性があるので、工夫した方が確実だと思います。

○事務局：検討します。

○久保田会長：この件について、ご賛同いただけますか。

○委員：(異議なし)

### 協議事項3 市街地巡回線の変更について

○事務局：(資料3の説明)

○久保田会長：この件について、ご賛同いただけますか。

○委員：(異議なし)

### 協議事項4 事業者協力型自家用有償旅客運送の更新について

○事務局：(資料4の説明)

○下平委員(岐阜運輸支局)：資料4の1ページに「土日祝日の運行を行っておりますため、運行管理や車両の整備管理を交通事業者が協力する事業者協力型自家用有償運送に変更を行っております」とありますが、土日に限らず、平日も事業者協力型で、全運行日の運行管理と整備管理は事業者に協力いただくという理解でよいですか。

○事務局：その理解で問題ありません。運行日に土日祝日が追加されたことで、市職員が出勤できない曜日にも対応いただくということで、全ての日を事業者に対応いただくこととしています。

○下平委員(岐阜運輸支局)：運行前のアルコールチェックや健康状態の確認等の業務は事業者の事務所で実施するという理解でよいですか。

○事務局：その理解で問題ありません。

○奥田委員(山口市PTA連合会)：神崎山県BT線について、伊往戸と円原へ延伸しましたが、利用状況は把握されていますか。

今年度は子ども会とコラボし、乗車体験会を開催していただきましたが、来年度は何か検討しているイベントはありますか。

○事務局：伊往戸と円原の利用状況について、正確な人数はすぐにはお答えできませんが、月に2、3回程度の利用となっています。

今年度は、子ども会と共催しバスの乗り方講座を開催しました。来年度については、依頼があれば出向くことを考えていますが、他にも地域の方や高齢の方に乗っていただけるように、各地域で乗り方講座のようなイベントを開催できればと考えています。

○奥田委員（山縣市 PTA 連合会）：3月下旬に大桜・美山・富波の三保育園であまごの放流イベントを漁協とコラボして実施する予定です。その際の交通手段として、岐阜板取線と神崎山県 BT 線を活用できないかについて調整しています。少しでも多くの子どもたちが簡単にバスに乗れるということをわかってもらえるような方法を検討しています。来年度には、ハーバスに乗るイベントができないか検討しています。

○事務局：保育園の園外保育に関しては、先生から運賃免除申請をいただいております。適宜保育園と連携して情報取得を行っていきたいと考えています。

○久保田会長：昔は子どもにとってバスの運転手は憧れの存在でした。子どものうちにその姿を見ることが将来的にバスの利用につながると思うので、今後ともご協力いただければと思います。

○久保田会長：この件について、ご賛同いただけますか。

○委員：（異議なし）

#### **報告事項1 前回からの実施報告**

#### **報告事項2 高校生通学定期券補助制度（案）について**

○事務局：（資料5、資料6の説明）

○久保田会長：岐阜バスの通学1年定期券の場合、岐阜駅方面に行くと10万円を超える出費が発生するため、その支援で実施するものであり、岐阜市への通学を推奨しているものではありません。市内の高校については、以前から運賃面での利便性を確保しており、山県高校へは岐北厚生病院から片道100円で行くことができます。

○奥田委員（山口市 PTA 連合会）：通学定期の補助制度について、上限を 4 万円にした根拠を教えてください。

事前に配布された資料には、高校 1 年生には国の重点支援助成金により一律 5 万円を支給するため、本制度の対象は高校 2 年生、高校 3 年生を対象とする予定と記載がありましたが、本日の差し替え資料にはその記載がなくなりました。高校 1 年生から高校 3 年生までを本制度の対象にすることに切り替えたという理解でよいですか。

○事務局：市の財政状況等を鑑みて上限 4 万円、定期購入額の 4 分の 1 という金額を設定しました。

高校 1 年生から高校 3 年生までを対象にするということで切り替えました。

○奥田委員（山口市 PTA 連合会）：山口市内から岐阜市の高校まで、通学 1 年定期券は 6 万円～10 万円かかることから、もう少し上限額が上がればと思いますので今後検討いただきたいと思います。

○久保田会長：来年度に、物価高騰への対応として、高校生に上がる子には 5 万円、中学生に上がる子には 4 万円、小学校に上がる子には 3 万円を各ご家庭に支給します。こうした支援も含めて、ご理解いただきたいと思います。

## その他

○倉内副会長：自主運行バスの利用者数が全体的に増加していることは非常によいことだと思います。

地域バス調整会議が今年度開催できなかったことについて、路線の再編案がまとまらなかったという理由でしたが、市民と一緒に作っていくことが大切だと思います。来年度早々に開催されるということなので問題はありませんが、再編案がまとまっていないとしても、市民の方とどこが課題なのか、どういう方法が考えられるのかを話し合う場にするといいのではないかと思います。

子ども向けに様々なイベントを開催されたことは非常に良いことだと思います。このようなイベントで子どもに興味を持ってもらうことは非常に重要だと思いますので、今後ともご検討いただければと思います。

○事務局：次回の開催について、6 月下旬を予定しています。

以上

